

5ピッチ目



凹角に走るクラックを登り、小さなレッジへ。その後、カンテを右に回り込んでスラブへ。10m弱で揖岳のピークに立つ

4ピッチ目上部



カンテを回り込んだあと、レッジからホールドの乏しいフェイスを登り、最後は快適だがランナウトするスラブ。核心部はエイドで登るクライマーが多いようだ

4ピッチ目下部

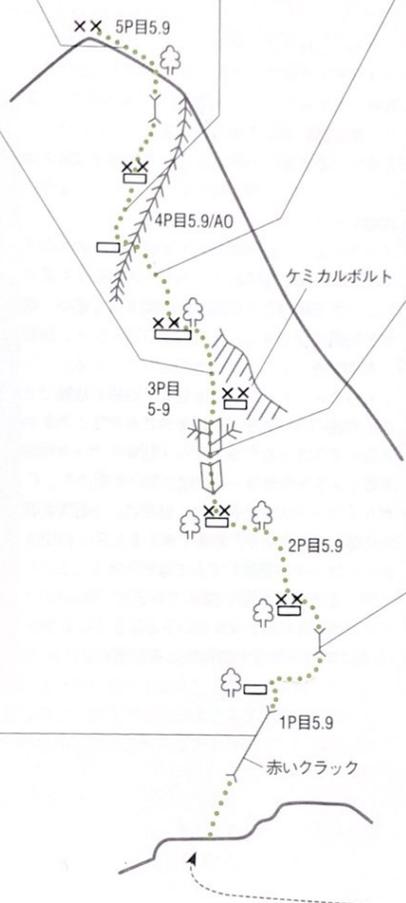


ホールドが大きく、快適なフェイスを進み、上部で壁がかぶってくるあたりで左へトラバース。威圧感のわりに簡単なが、レッジに乗り込むところが少し悪い

3ピッチ目上部



中間部のレッジからスラブをトラバースして、木の生えたレッジへ

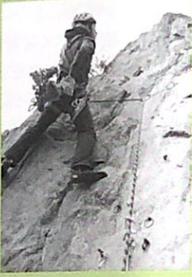


3ピッチ目下部



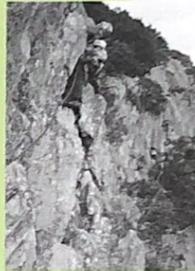
木の生えた顕著な凹角を抜けると、右にレッジがある。ケミカルボルトが打たれ、ここでピッチを切ることもできる。レッジからは左にトラバース

2ピッチ目



出だしの3mほどはホールドが細かく難しい。その後は快適なフェイスを登り、左へトラバースするとビレイポイントに出る

1ピッチ目上部



下部のレッジからカンテを右に回り込み、大きな石が積まれたような階段状の凹角を登る

1ピッチ目下部



赤茶けた斜上クラックを登る。柱状節理で縦ホールドが多く、フットワークが難しい。数カ所、カムでプロテクションが取れる。クラックが終わった直後にレッジがあり、ここでピッチを切る



ヤマケイ新書 好評発売中!  
**山野井泰史 アルピニズムと死**  
 —僕が登り続けてこられた理由—

かつて「天国に一番近いクライマー」と呼ばれた男はなぜ、死ななかったのか。極限の登攀に挑み続けてきた山野井泰史が今初めて語る山と生、そして死。



成層圏に近い8000メートル峰で、紺碧の空のもと、肺がちぎれそうになりながらも、いったい何度、生命を実感したことだろう。垂直の世界でも長く生きてきた。わずかに指先しか掛からない岩壁に向かい、鍛えた肉体でさらなる困難を求め続けてきた。

「アルピニズムについて」より

192ページ・定価：本体760円+税 [お求めは書店にて] 山と溪谷社 〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1丁目105番地 <http://www.yama-kei.co.jp>